

啓翁桜 輸出の柱に



ロシア・サンクトペテルブルクに向け輸出される啓翁桜 二酒田市

ロシアへ 今年の2倍超

ロシアでは国際女性デーに男性が女性に花を贈る習慣があり、3月上旬に花卉(かき)市場が最盛期を迎える。県国際経済振興機構とJ A庄内みどり(酒田市)は、この日に合わせて、2015年まで極東の主要都市ハバロフスクに啓翁桜やストック

県と酒田市、遊佐町、J Aなどで組織する酒田地区農産物輸出推進協議会が、啓翁桜の輸出拡大策を強化している。昨年初めて800本を送ったロシア・サンクトペテルブルクには、今年も国際女性デー(3月8日)に合わせて、2倍超の1900本を輸出する。22日に酒田市内で検疫に合格した。香港へのテスト輸送も現在実施中。海外で希少価値の高い桜は本県輸出農産品の柱になり得るとして関係者が意気込んでいる。

酒田地区農産物推進協 希少価値高く、香港にも

同機構の阿部幸夫ロシア貿易アドバイザーは「本県は日本一の啓翁桜の産地。訪日旅行者の増加もあって桜への関心が高まる中、日本一の冠を付けて売っていきたい」と話した。

今年3月上旬から同植物園に展示し、複数の生花店の店頭で販売するほか、エルミタージュ美術館での展示も予定している。輸出に先立ち、22日には同J A管内で生産した啓翁桜1900本とストック200本の検疫を実施し、合格した。23日、成田空港に出発し、韓国経由で現地に空輸する。

現地の国立植物園で展示即売会を開催。世界有数の美術館・エルミタージュ美術館での啓翁桜の生け花展示を実現させた。啓翁桜は、ロシアで一般的なチューリップの3倍程度と高値ながら、その美しさ、品質が評価され、昨年の2倍超の輸出本数へと結び付けた。